

## 1 学校教育目標

## (1) 教育方針

全ての人の幸福のために、倫理的に正しく、規律ある判断力をもって責任ある行動がとれる人間の育成を目指す。

## (2) 教育スローガン

人吉球磨の発展に貢献し、郷土を「支え」「誇り」「愛し」続ける人づくり

## (3) 目指す学校像

命を大切にする心と人権尊重の精神を育む学校

～明るく、楽しく、あたたかな学校づくり～

ア 生徒の進路目標を100%実現する学校

イ 生徒の危機回避能力や判断力を育成する学校

ウ 地域と課題を共有し、その解決のために地域とともに取り組む学校

## (4) 目指す生徒像

自他の命を大切にし、相手の気持ちが理解できる生徒

ア 目標達成のために地道に努力し、自分の未来を自分の意志で切り拓く生徒

イ 好奇心や疑問を持ち、自分の行動(考)動に工夫・改善を求める生徒

ウ 地域の文化や歴史、自然を大切にし、社会に貢献する生徒

## (5) 目指す教職員像

教育的愛情と人権感覚を持ち、生徒に寄り添い、支援できる教職員

ア 課題を自分事として捉え、周囲と協働し、組織的に行動できる教職員

イ 正しい批判力を持ち、常に授業・業務改善に取り組む教職員

ウ 教養と品格を持ち、人としての在り方を生徒に示す教職員

## 2 本年度の重点目標

## (1) 明るく、楽しく、あたたかな学校生活の実現

ア 人権教育の充実

いじめを絶対に許さないという姿勢を徹底し、品格ある言語環境を構築し、すべての教育活動において、人権感覚の高揚に努める。

イ 教育相談体制の充実

全ての教育活動を通して生徒の現況把握に努め、生徒理解と心の教育の充実を図る。

教職員間の情報共有を図り、いじめの早期発見や対応、特別な配慮を要する生徒への対応などを適切に行うとともに、生徒がSOSを発信しやすい環境をつくる。

ウ 授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導の推進

生徒が自ら課題や疑問を発見し、思考し、最適解を発見する探究型授業を積極的に実践するとともに、常に指導と評価の一体化についての研究を深める。

個別の添削や面接指導等により個々の進路目標に応じたきめ細かな指導を行い、すべての生徒の進路目標の達成を図る。

生徒が主体的に自らの将来について考えができるよう、学校外での学びや活動の場を積極的に設けるなど、本校におけるキャリア教育の充実を図る。

エ 基本的な生活習慣の確立

心をこめた挨拶、自主的な掃除、時間厳守など、「当たり前のことを、当たり前に。」を実践し、感謝と協働の心にあふれる学校を目指す。

規則正しい食事、十分な睡眠や適切な運動など健康管理の徹底を進めるとともに、検診後の未受診者数を減らすなど、健やかな体と豊かな心を育てる。

オ 道徳教育

すべての教育活動をとおして、自分にとって、周りの人にとって、地域にとって、社会にとって何が一番幸せなのかを常に考え、判断し、行動する力を育成する。

教職員同士、相手の存在を敬い、助け合い、協力しながら仕事を遂行する。

## (2) 安心・安全、健康的な学校生活の実現

ア 交通ルールと交通マナー遵守の徹底

スマートフォンなどを見ながら自転車を運転したり歩行したりする、左右をよく確認せずに道路を横断する、信号を無視するなどの、大きな事故につながる行動を絶対にさせない。また、命を守るために、ヘルメットの着用を推進する。

イ 情報モラル教育の推進

被害者にも加害者にもならないように、個人情報や写真、迷惑行為の画像等をネット上に掲載したり、他者を誹謗中傷したりすることがないよう、すべての教育活動をとおして情報リテラシーを育成する。

ウ 防災教育の充実

防災主任を中心に、全職員が協力して、地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育及び避難訓練等に取り組む。また、家庭、地域、行政機関等との連携・協働による防災体制の整備に取り組む。

エ 危機管理体制の一層の構築

事故や重大事態が発生した時に迅速かつ適切に対応するため、危機管理マニュアルの共通理解を徹底する。

(3) 未来を創造する人材の育成～特別活動や生徒会活動などを通した人格形成～

ア 部活動や委員会活動などへ積極的に参加するよう促し、教育活動全般をとおして自主性と創造性を育む。

イ ボランティア活動等をとおして、自ら考え、行動する生徒を育成するとともに、利他の心を育む。

(4) 地域を創造する人材の育成～保護者・地域との連携～

ア 錦町や育友会、同窓会等との連携を大切にし、地域社会に本校の教育活動についての理解を深めてもらえるよう努めるとともに、地域社会の発展に貢献する。

イ 保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに、地域社会や小・中学校との連携を図る。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	業務改善 ・働き方 改革	・チームとしての連携や情報共有が図られているか。 ・チームとしての業務推進により校務運営の改善がなされているか	会議や風通しのよい組織づくりをとおして、職員が協力しあう気持ちやチームとしての一体感を醸成し、情報共有と業務の推進を図る。	職員研修の実施や日頃のコミュニケーションを重視し、個々の職員が互いを理解し、尊重することで、チームとして相乗効果を発揮する。	B	・職員研修では、対話型の研修を取り入れ、職員間の相互理解や尊重を深めることに取り組むことができた。 ・ICT機器活用による会議等のペーパーレス化を推進し、業務の効率化を図ることができた。
	授業改善 と授業力 アップ	・わかる授業の展開がなされているか。	GIGAスクールに対応するため、教師のICTスキルを上げ、授業展開及び授業改善に活用する。	ICTの効果的な活用法等について、教師向けに様々な情報を提供し、授業への活用を促す。	A	ICT機器を活用した授業を実施し、生徒の関心を引き出すことができた。定期的に教育アプリの職員研修等も実施した。授業改善を促し、指導と評価の一体化、形成的評価を達成する。
	進路保障 の充実と 募集定員 の確保	・キャリア教育を行うことにより、進路保障が図られ、入学希望者の増加に繋がったか。 ・本校の特色ある取組みが魅力発信に繋がっているか。	・4年制大学への進学者20名以上、県内企業への就職5割以上を目標とする。 ・進路の確実な保障により入学希望者が定員の8割以	・進路ガイダンスの充実を図ったり、進路指導部との2者面談を実施したりする。 ・学科の特色を活かした進路決定につい	B	・4年生大学進学者が14名、県内企業へ就職する就職者が5割を上回った。しかし、割合は昨年度より減少している。 ・本校の前期(特色)選抜の倍率が0.82(前年度0.01増)である。

		上となるよう にする。	て、中学校関 係者や地域に 広く情報発信 する。		
	豪雨災害 からの復 旧、復興 活動の推 進	・錦町をはじめと する行政機関等と の連携が図られ ているか。 ・復旧、復興活動 に関わることで、 生徒の変容は見ら れるか。	・復旧・復興 活動を通して 地域への理解 を深め郷土愛 を育む。	・地域が主催 する復興イベ ントに生徒が 参加するよう 促進する。	・本校と錦町、そし て市房食堂が共同開 発した商品がふるさ と納税の返礼品に採 択される等、行政機 関との連携を図るこ とができた。また、人 吉スカイランタン フェスティバル等の 復興イベントにも、 ボランティアとして 多くの生徒が参加し た。 ・復興のために本校 ができるこことをさ らに積極的に行う体制 を作りたい。
学力 向上	授業改善 と授業力 アップ (授業デ ザインと 授業評価 )	・生徒が意欲的に 授業に取り組める よう、分かる授業 が展開されてい るか。	毎学期、授業 評価アンケー トを実施し、 「先生の説明 は分かりやす い」の全体の 割合について6 0%以上にする 。	授業評価は生 徒の成績算出 だけではなく、 生徒の学びに 向かう姿勢の 育成や教師の 授業改善を 目的に行う。 考查の時だけ ではなく、毎 授業に評価の ポイントを作 る等、授業デ ザインを促す 。	授業評価アンケー トでは、「先生の説明 は分かりやすい」の 評価は4点満点中、平 均3.78点であった。 科目によっては苦手 意識を持つ生徒もお り、個別最適な学び の実現のため、生徒 の学ぶ意欲を向上さ せる形成的評価を取 り入れた授業改善を 促していきたい。
	言語活動 の充実	・朝の10分間読 書による読書活動 の充実が図られ ているか。 ・「球磨地域学」 等の学習活動を通 して、自らの考 えを整理し表現する 等の活動が充実し ているか。	読書週間を設 け、日常生活 での読書活動 を活発にさせ る。 球磨地域学で は、地域活性化 策等につい て、生徒のア イデアを創出 する。	魅力ある図書 コーナー等の 生徒図書委員 の活動を推進 する。 自治体や地元 企業等から外 部講師を招聘 し、地域資源 について学び 地域活性化策 等を探究する 授業を開催す る。	・推薦図書を載せた ライブラリーニュ ースや新着図書紹介、 季節ごとの図書イベ ント等で読書意欲を 喚起した。 ・人吉球磨地域10市 町村の地域資源や活 性化策等について学 習し、生徒は地域の 課題解決について深 く考察するようにな った。 ・図書館を活用した 授業もあり、英語コミュ ニケーションの授業では、 ディベートを実践す るなど、図書と授業 のつながりを持つこ とができた。
キャリ ア教育 (進路 指導)	卒業後 あるべき 姿を見据 えた進路 指導の確 立	・学校行事や学年 の取り組みを通 じて進路意識が向 上しているか。 ・3年間を見据え た計画の立案がき ちんとできてい るか。	・生徒一人一 人の適性を見 極め、それぞ れの生徒の希 望と適性に合 う適切な進路 を保障してい く。	・入学初期の 段階で「適職 興味検査」を 実施し、職業 観を身につけ た上で活動の 場を設ける。 また、就職・	・自己の興味や適性 を理解した上で、合 同企業説明会の参 加や企業見学バスツア ーなどの活動の場を 設け、新たに計画、 実施することができ た。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の進路計画を毎年振り返り、改善につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学ともに最新の情報の収集・分析に努め、各学年・分掌と情報を共有する。</li> <li>・各取組について各学年や分掌から意見を集約し、次年度に向けて各取組を改善</li> <li>・進化させていく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者、職員に対して進路情報を提供し、個人面談やガイダンスを充実させることができたが、連絡や掲示だけに留まることがないように具体的な活用法を示す必要がある。また、県外就職者の多くが就業場所を福岡に選んでおり、安易な進路選択になつていいか注視する必要がある。</li> </ul>
	資格取得への意識向上と取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や夕課外等を通して、資格取得への意識の高揚を図ることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各検定において合格率10%アップ（昨年度比）を目標とし、取得した資格を活かした進路を実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年部や部活動顧問と連携をとりながら、各検定前1週間は放課後学習会を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後学習会の成果もあり、簿記関連資格の本校初の合格者輩出をはじめ、合格者数増を達成することができ、進路実現の一助となった。</li> </ul>
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。周囲と協働する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①挨拶、返事、言葉遣い②正装③掃除④勉強⑤運動⑥学校行事等の充実が図られているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健全で自立的な態度、道徳的な心情、判断力の向上を図り、生徒自らが考え、主体的に行動できる能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立、交通事故・違反防止、委員会活動等の促進、部活動や課外活動の奨励を通して、自ら考えさせる。特に日々の練習等、部活動へ取り組む意識を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな交通事故もなく、特別な指導も0件であった。</li> <li>・月1回部活動報告書の提出により、部活動の活性化を図った。リーダー研修を行うことにより、部活動の在り方について自ら考えることができるようになった。</li> </ul>
	安全教育を推進し情報モラルの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①安全教育の推進、②情報モラル教育の充実が図られているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会を形成するべき一員として、行動力・生活力・実践力を身に付けさせる。未然防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活指導、担任面談、SNSのマナー教育等を充実させ、家庭との連携を強化、未然防止にあたる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育については、ライン財団よりリモート授業を実施、指導を行った。職員間の情報の共有や地域・保護者との連携強化を図る必要がある。</li> </ul>
人権教育の推進	基本的人権を正しく理解し、自他を尊重する生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育の理念が行き渡り、積極的な取り組みが行われているか。</li> <li>・生徒へ細心の注意を払い、人権教育に対する指導や対応ができているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人の立場に立ち、その人に必要なことや考え方や気持ちが分かるような創造力と共感的に理解する力を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒安心委員会による心のきずな月間の放送を行う。</li> <li>・人権標語を生徒安心委員会で作る。</li> <li>・生活安心委員会で学期一回のあいさつ運動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒安心委員会の放送により、自他の人権を正しく理解し相互に尊重しあうことを学んだ。</li> <li>・人権標語の作成については未実施だった。生徒の意識高揚のためにも、来年度は実施したい。</li> <li>・今年度の生徒安心委員会による挨拶運動は未実施だった。来年度はぜひ行いたい。</li> </ul>

	命を大切にする心を育む指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の命を大切にする心を育む取組ができているか</li> <li>・教育相談体制は充実しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の命について考える機会を設け、自他共に大切にする心を育てる。</li> <li>・生徒が相談しやすい雰囲気作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修の充実。</li> <li>・人権教育 LHR、いじめに関する実態調査（心のアンケート）、外部テスト等の活用。</li> <li>・人権教育推進委員会と連携を図り、個々の支援計画を作成する。</li> <li>・SC・SSWの専門機関と連携しながら教育相談体制を更に充実させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修を計1回行い、教職員の人権意識を深めることができた。</li> <li>・学期に1回の人権LHR、いじめアンケートを実施した。また、心理テスト等の外部調査を実施し、生徒指導や支援のための情報共有ができた。</li> <li>・担任が特別支援教育コーディネーターと連携し、個々の支援計画を作成した。</li> <li>・SCとの連携により、いじめや不登校の早期対応を行うことができた。</li> <li>・課題は、様々な特性を持つ生徒が楽しく学校生活を送る仕組みを作る取り組みを行うことである。</li> </ul>
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回（学期に1回）アンケートを実施し、その結果に基づき、迅速かつ適切な対応が行われているか。</li> <li>・全ての教育活動を通して、生徒理解と実態把握に努めているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の通じ合う、望ましいコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で参加・活躍できるような授業や集団づくりを行う。</li> <li>・一人ひとりの持つ悩みや困難の解決を援助することによって、成長の援助を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめを防止する重要性等について保護者を含めた関係者への啓発活動の推進。</li> <li>・面談やアンケート、教育相談の充実を図り、相談しやすい環境を整える。</li> <li>・管理職・いじめ情報集約担当者を中心として、常に情報共有を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの実施時間を多く設けることにより、担任と学年主任、そして担当者との情報共有をスムーズに行うことができた。必要に応じてアンケートの情報を提供するが今後の課題である。</li> <li>・全学年、各学期に1回ずつ心のアンケートを実施することで、いじめ等の早期発見、未然防止に役立った。</li> <li>・アンケート結果でいじめを受けたと答えた生徒や気になる生徒への聞き取り、対応の検討等を組織取り組むことができた。</li> </ul>
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校運営協議会（コミュニティスクール）と学校運営との連動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会（コミュニティスクール）との協議内容が学校運営に生かされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざし、地域社会から信頼される学校づくりに取り組む。</li> <li>・防災意識の高揚を図る</li> <li>・危機管理態勢を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会において地域と連携した協働体制と防災体制を整備する。</li> <li>・避難訓練やシミュレーション訓練の充実を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会において、学校の防災体制を確認することができた。</li> <li>・生徒に対する事前の通知がない実践的な避難訓練を実施することができた。来年度も有意義な避難訓練を実施したい。</li> </ul>
	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行政機関や学校関係者及び保護者との連携力が図られているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土への愛着と誇りを持つ生徒を育成する。目的意識を持って取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや百貨店等の学校行事、また地域のイベントやボ</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップと球磨中央百貨店を開催し、地域の方々との交流ができた。また、錦町サンロードシ</li> </ul>

		組ませることで成長を促す。	ランティア活動等への積極的参加を図る。		ティでの販売実習や、錦町物産館主催の祭りの販売実習ボランティア活動に多数の生徒が積極的に參加した。 ・今後、さらに多くのイベントに本校生徒が参加し、学校PR等を推進させたい。
健康教育と環境整備	健康管理に対する意識の高揚と望ましい学習環境づくり	・健康観察及び健康指導の徹底及び室内・外の環境が整備されているか。	健康管理・健康教育に対する意識の向上を図り、ゴミの分別を実践し、定期的に美化コンクールを行い、主体的な実行力を身につけさせる。	・毎日の健康観察の実施。 ・健康の保持増進を意識した保健指導を行う。 ・保健委員会の活動として、毎月保健便りの発行と毎朝の健康観察を実施する。 ・学期ごと美化コンクールを実施する。 ・学校版環境ISO宣言・学期ごとの安全点検を実施する。	B ・生徒保健委員会の活動として、毎朝健康観察を実施し、欠席者の把握が確実にできた。保健だよりは毎月発行し、後半はCanvaの講習会を行い、視覚に訴える紙面づくりを行った。 ・来室者に毎回保健指導をした。 ・美化コンクールの点検項目を変えて、安全管理部職員とともに実施した。満点のクラスが増加した。 ISO宣言は廊下に提示し安全点検も毎学期実施した。

#### 4 学校関係者評価

##### 【学校運営協議会（総合型）について】

###### 11月25日（月）第1回学校運営協議会

令和6年度のスクール・ミッション及びスクール・ポリシー、本校の教育目標、生徒募集に向けた取組、教育活動の概要、学校経営方針等についての概要説明、学校評価計画案の提示、学校防災計画についての説明を行い、御意見をいただいた。

###### 2月20日（木）第2回学校運営協議会

令和6年度学校評価表、学校評価アンケート結果、防災教育活動、本校の教育活動の現況や取組状況等について報告を行い、意見を集約した。

##### 【各委員からの評価】

###### ◎第1回学校運営協議会での意見等

- 生徒の商品開発について私達の業界でも力になればと思う。
- 生徒たちの元気の良い挨拶がすばらしい。
- 「信用」を生徒に教えること 信用は金では買えない。
- 学校を卒業したら成人である。ある程度の知識や対応力を持っておかなければならない。お金・保険・勧誘の対応・選挙について教育を。
- 闇バイト、スマホの危険性について、もし起こしたとしてもすぐに警察に行くなどの指導をしてほしい
- サイバー、機密情報、ICTの防犯的な観点から授業を実施してほしい
- 防災の公開授業はどのようなものでしたのか。→公開授業として全授業で実施。
- 球磨中央百貨店 生徒がもてなすという意識がある。率先して挨拶してくれる。百貨店を伝統的に継続してほしい。高校時代に接客を学ぶ学校は他にはない。

###### ◎第2回学校運営協議会での意見等

- 自分が学生時代と状況が変わってきた。生徒が学校に対して満足しているのであれば、保護者の意見を気にする必要があるのでしょうか。
- 自転車ヘルメットの着用が義務化されるが、学校ではどのような取り組みを行っていますか。  
(回答) 4月から全面実施できるように、準備しています。
- 働き方改革に関して、高校では何か業務改革をやっていますか。  
(回答) 職員朝会の回数、さらに会議の回数も減らしています。職員には勤務時間を意識してもらい、働きすぎの先生は、勤務時間の削減を、自己評価の目標にしてもらう等の取り組みを行っています。
- 生徒の進路状況に関して、進学、就職の割合を教えてください。  
(回答) 進学6割、就職4割です。地元に残る生徒は、10名程度です。

- 錦町商工会の仕事をしているが、イベントで書道部の参加や美術部の作品展示の依頼等をしてもよいのでしょうか。できれば、生徒さんの発表の場を協力したいと思っています。
- 就職先を選ぶときに、求人票で総支給額を見て決める生徒が多いが、税金やその他の控除も考慮入れてほしい。地元に残ったほうが生徒には有利ではないか。
- 個人的に地元に残ってほしいという気持ちが強い。地域の人口が減っています。
- 地域に根差しているという意味で、本校の地域未来探究科は魅力的です。人間性を高め、世の中がかわいがられる人間に成長するような教育を期待します。
- インターンシップも実施していますが、生徒さんが学ぶには機会としてはかなり限られている気がします。もうちょっと積極的に、高校生の就職指導を行いたいと考えています。
- 今の生徒は、卒業すれば何でも契約等できてしまう世の中の危険性も教えてほしい。
- 錦中の生徒は、中央高に注目しています。
- 球磨中央百貨店で高校生が生き生きと販売しています。その姿に、元気をもらいます。
- 球磨中央高1年生が気持ちよく挨拶をしてくれます。このような学校の雰囲気が大事だと思います。
- PTA関係のイベントが多いのが魅力的です。保護者が手伝う機会が多いので、中央高校らしい活動を続けて、保護者との連携を深めていってほしいです。

## 5 総合評価

- 3年間にわたり貴校の学校運営協議会委員を務めさせていただいたが、訪問するたびに生徒さんから元気の良い挨拶をもらって大変良い気分にさせていただいたし、校内の明るい雰囲気にもつながっていると思います。
- 生徒さんに対するブラインドの実践的避難訓練を実施したことですが、今後もマンネリ化することなく創意工夫を重ねながら様々な防災教育に取り組んでいただきたいと思います。経験則として、成人してからよりも子供時代に当たり前として身に付けたものがいざというときに役立つ、反射的に動けるものと考えています。
- 地域に根ざした特色ある学校教育。本当にありがとうございます。
- 生徒数が減少していく中。これからの中高連携の更なるバージョンアップをどうぞ宜しくお願ひします。
- 自己評価統者表>学校経営>豪雨災害からの復旧、復興活動の推進については「B→A」でいいのではないかと思います。地元企業のPRにつながり、錦町のふるすこと納税の返礼品に採用されたためです。12月4日の取り組み発表も大変素晴らしかったです。

## 6 次年度への課題・改善方策

- プライベートであれ仕事であれ、相手とコミュニケーションを取る第一歩が声かけであり、やれば誰でもできるのが挨拶だと思います。今後も挨拶を当たり前にできる指導を続けていただきたいと思います。
- 2025年度から県内県立高校では自転車のヘルメット着用が義務化されると聞き及んでいますが、生徒さんに対するヘルメット着用の指導だけではなく、根本的に自転車は“車両”であり、人身交通事故では被害者だけでなく加害者にもなり得ることを十分指導していただくことが必要だと思います。昨年12月には東京都内で女子高校生が自転車で歩行者をはねて死亡させる事故も起きており、万が一重大事故を起こしてしまえばその後の生徒さんの人生に大きな影響を与えることになります。生徒さん達が身につまされるような指導を継続して行っていただきたいと思います。
- 地域の防災機関として、お力になれるところがありましたら、何なりとご用命いただければと思います。
- 全国的に人手不足が深刻な状況となっています。一人でも多く地元企業に入社していただけるような指導をお願いします。
- 学校評価アンケートでいじめの根絶を目指した指導に不満を抱いている様子がうかがわれますので、いじめ根絶の100%達成をお願いします。
- 今からの若者は、先送りした多くは宿題と向き合わなくてはならないと思います。環境、災害、過疎化と一局集中、医療と社会保障、ジェンダー格差、少子高齢化、奨学金、年金、紛争、防衛等、枚挙のいとまがありません。
- 多くの人と話し、より良い解決法を導く為には、コミュニケーション能力の向上を図る必場があると思います。
- 外部の専門家を招き、知識を得る事も考えられます。池上彰さんのようにわかりやすいのがベストですが…）。ファクトチェックのないインターネットの情報のみでなく、新聞、テレビ、ラジオも併用し、アンテの意見も考慮した考えを持てるようになるとよいと思います。それには。ディスカッション、ディベート、ブレインストーミング、アサーティブコミュニケーション、プレゼンテーション等、いろんな手法での訓練が必要かとも思います。話すことが不得手な私見でした。
- 先生方の学校運営に取り組まれている内容、学校評価表、各保護者に周知していただくのは、もちろんの事、先生方がこれだけ取り組まれておられる事も是非、保護者の方々との共有をしていただければと思います。